

**「共に学ぶ喜びを分かち合おう」を合言葉に：苫  
小牧市障害者パソコンボランティア友の会との協働  
について(<特集論文>北海道の生涯学習)**

著者	高橋 徹
雑誌名	生涯学習研究と実践：浅井学園大学生涯学習研究 所研究紀要
巻	9
ページ	65-78
発行年	2006-03-20
URL	<a href="http://id.nii.ac.jp/1136/00002264/">http://id.nii.ac.jp/1136/00002264/</a>

# 「共に学ぶ喜びを分かち合おう」を合言葉に ～苫小牧市障害者パソコンボランティア友の会との協働について～

“Share the Joy of Learning Together: The Mutual Cooperation of Tomakomai  
Computer Volunteer Society for Handicapped People”

高 橋 徹\*

TAKAHASHI, Toru

## 1 はじめに

パソコンの普及をはじめ情報通信技術の利用が不可欠になってきた現代社会。その情報通信技術を利用するために必要となる基本的な知識や能力について、企業や団体、学校など組織内での教育が可能な人々と異なり、情報弱者と呼ばれる家庭の主婦や高齢者、なかでもその利用に大きな壁が立ちふさがっているのが、専用の機器やソフトを使わなければならない障害のある人たちである。

しかも、障害の内容や程度に応じて簡単に使える機器やソフトが必要であるにもかかわらず、その開発や普及には時間を要するのが現状である。

さらに、初めから個人で自分に適合した機器を購入することは困難であり、その面で、容易に体験できる環境づくりと、それぞれの障害に合わせた支援技術を持つインストラクターやボランティアの存在が不可欠である。

そこで、苫小牧市は、市教育委員会と障害者団体、市民ボランティアの3者の協働による障害者パソコン教室を開設し、障害を持つ人たちの学ぶ機会の充実と、それを支援する市民ボランティアのさらなる学びの場の提供を図ってきた。

障害というハンディキャップを持っている人に学習の機会を提供し、一方で学習の成果をボランティアという形で生かすことの出来る障害者パソコン教室は、「参加型の学習」として、これからの生涯学習の方向を示す試みとなるかもしれない。

本稿では、当市の障害者パソコン教室の概要とそれを支援してくれている苫小牧市障害者パソコンボランティア友の会の活動について報告したい。

## 2 IT講習と障害者対象コースの開設

当市では、国の指導のもと、全国いっせいに行われたIT講習のうち、肢体不自由や聴覚、

---

\*苫小牧市教育委員会生涯学習主幹

この原稿の作成にあたっては、苫小牧市障害者パソコンボランティア友の会、苫小牧市身体障害者福祉連合会の協力を得ている

視覚障害のある人を対象とした I T 講習を、平成13年度、14年度の 2 ヶ年にわたって実施した。

実施に当たっては、当初、I T 講習の各会場での受け入れを検討したが、支援技術機器やソフトに限りがあるなど、パソコン利用を補助する機能（アクセシビリティ機能）<sup>1</sup>を全ての会場で準備するのは無理であることと、北海道内の障害のある人の I T 学習支援では先駆的な活動をしている NPO 法人札幌チャレンジド<sup>2</sup>のアドバイスもあり、コースを別に設定することにした。

さらに、マンツーマンの支援が必要となることから、当初予定していた講師・補助講師各 1 人では難しいと判断し、広報紙を通して支援をしてくれるパソコンボランティアを募集した。

パソコンボランティアの支援内容は、「パソコン等機器の設置」、「パソコン操作の補助」、「会場内での介護支援」とし、募集にあたっては、必ずしも、パソコン操作が得意でなくてもよいとしたところ、38人の市民が集まった。

パソコンボランティアの皆さんには、事前研修を行い、表－1のように、I T 講習の目的や、障害と I T、パソコンボランティアの技術、使用する支援技術機器やソフトについて学んでもらった。

受講者については、障害者団体である苫小牧市身体障害者福祉連合会を通しての応募と一般公募を併用し、市の施設である苫小牧市心身障害者福祉センターを会場に、表－2のように平成13年7月から、肢体不自由コース 2 教室、視覚障害コース 3 教室、聴覚障害コース 1 教室をスタートさせた。平成14年度は、表－3のように肢体不自由コース 1 教室、聴覚コース、聴覚コースを各 1 教室ずつ開設した。

講習内容は、表－4のように原則的に I T 講習と同じ内容としたが、視覚障害コースでは、パソコンに触れることや文字入力の方法に多くの時間を充てた。

表－1 平成13年度障害者対象 I T 講習パソコンボランティア養成講習会

日 時	内 容	講 師
7 月 11 日(水) 19 時～21 時	・主催者挨拶 ・オリエンテーション ・I T 講習の概要 ・障害のある人と I T ・パソコンボランティア	苫小牧市教育委員会職員他
7 月 12 日(木) 19 時～21 時	・肢体不自由のある人のための パソコンボランティア技術(1)	パシフィックサプライ(株) 札幌営業所
7 月 16 日(月) 19 時～21 時	・肢体不自由のある人のための パソコンボランティア技術(2)	パシフィックサプライ(株) 札幌営業所
7 月 23 日(月) 19 時～21 時	・視覚障害のある人のための パソコンボランティア技術(1)	北海道視覚障害 リハビリテーション協会

※会場 苫小牧市心身障害者福祉センター（市内旭町2-1-11 電話34-5821）

表－２ 障害者対象のＩＴ講習 平成13年度

対 象	時 間	講 習 日 時	受講者数	ボランティア参加者数(38人登録) (延べ人数／1日平均人数)	
肢体不自由	①13:30～15:30	7月25日(水)・26日(木)・27日(金) 8月1日(水)・2日(木)・3日(金)	20	45	7.5
	②18:30～20:30	7月25日(水)・26日(木)・27日(金) 8月1日(水)・2日(木)・3日(金)	10	58	9.7
視 覚 障 害	①18:30～20:30	9月27日(木)・28日(金)・29日(土) 10月4日(木)・5日(金)・6日(土)	8	72	12
	②18:30～20:30	10月11日(木)・12日(金)・13日(土) 10月18日(木)・19日(金)・20日(土)	8	53	8.8
	③18:30～20:30	10月25日(木)・26日(金)・27日(土) 10月31日(木)・11月1日(木)・2日(金)	7	54	9
聴 覚 障 害	①18:30～20:30	11月8日(木)・9日(金)・10日(土) 11月15日(木)・16日(金)・17日(土)	13	57 手話通訳 46	9.5 7.7
計			66	339 (ボ339 手46)	9.4 ボ9.4 手7.6

表－３ 障害者対象のＩＴ講習 平成14年度

対 象	時 間	講 習 日 時	受講者数	ボランティア参加者数(38人登録) (延べ人数／1日平均人数)	
視 覚 障 害	18:30～20:30	4月17日(水)・18日(木)・19日(金) 4月24日(水)・25日(木)・26日(金)	9	71	11.8
肢体不自由	18:30～20:30	5月8日(水)・9日(木)・10日(金) 5月15日(水)・16日(木)・17日(金)	15	59	9.8
聴 覚 障 害	18:30～20:30	5月22日(水)・23日(木)・24日(金) 5月29日(水)・30日(木)・31日(金)	6	ボランティア68 手話通訳18	11.3 3 14.3
計			30	ボランティア198 手話通訳18	11 3

表－４ 平成13・14年度障害者対象ＩＴ講習のカリキュラム等

対 象	カ リ キ ュ ラ ム	特に使用した機器等	
肢 体 不 自 由	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 障害に合わせて一人一人の机や椅子、機器をフィッティング</li> <li>● パソコンの機器構成と操作</li> <li>● キーボード及び入力補助機器の操作</li> <li>● ワープロによる文書作成</li> <li>● ホームページを見る</li> <li>● 電子メールの使い方</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● プロジェクター</li> <li>● ひらがなキーボード</li> <li>● ジョイスティック</li> <li>● 改造型トラックボール</li> <li>● 各種スイッチ</li> <li>● 重度用意思伝達パソコン（伝の心、キネックス）</li> </ul>	(受講者複数に一人) ボランティア
視 覚 障 害	<ul style="list-style-type: none"> <li>● パソコンに触れる</li> <li>● 音声読み上げソフトのスピード、音量調整、ヘッドフォンの調整</li> <li>● パソコン電源の入り切りを覚える</li> <li>● キーボード上のホームポジションを覚える</li> <li>● アルファベット、かなを入力</li> <li>● ホームページ検索を体験</li> <li>● 電子メールの送受信を体験</li> <li>● パソコンで点字を打つ</li> <li>● 点字をパソコンで読む</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 音声読み上げソフト</li> <li>● ホームページ解析ソフト</li> <li>● 電子メールソフト</li> <li>● ズームソフト</li> <li>● 点字読み取りソフト</li> <li>● スキャナー</li> <li>● 点字プリンター</li> <li>● 点字用紙</li> <li>● カセットテープ版キー操作解説書</li> </ul>	(マンツーマン) ボランティア
聴 覚 障 害	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 講習の進め方(手話通訳と要約筆記)</li> <li>● パソコンの機器構成と操作</li> <li>● キーボードの操作</li> <li>● ワープロによる文書作成</li> <li>● ホームページを見る</li> <li>● 電子メールの使い方</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● プロジェクター（講師用）</li> <li>● プロジェクター（要約筆記）</li> </ul>	(マンツーマン) ボランティア

### 3 苫小牧市独自の障害者パソコン教室

#### (1) 開設に至る経緯

平成14年度の障害者IT講習終了後も、障害者向けのパソコン教室を開催してほしいとの要望が、障害者団体からあった。そこで、当市では市単独事業として、独自に市教委と障害者団体との共催で障害者対象のパソコン教室を開催し、先のIT講習で実績のあるパソコンボランティアの協力を得ながら実施することとし、現在に至っている。

独自の障害者パソコン教室を開設するにあたっては、次の点に留意した。

- ① 障害者団体は受講者を募集するとともに、会場を用意する。
- ② 市教委は、パソコン等の機器と講師の派遣、ボランティアへの参加要請を行なう。
- ③ 講師は、パソコンボランティアの中から願う。

#### (2) 苫小牧市障害者パソコンボランティア友の会の結成

IT講習の障害者コースには、多くの市民ボランティアの方々が開催を支えてくれた。2カ年にわたる講習は、受講者ばかりでなくボランティアの皆さんも得るところが大きかった。後日、苫小牧市障害者パソコンボランティア友の会の会長に就任した菅原博さんは、市教委主催の平成16年度生涯学習指導者研修会の実践発表<sup>3</sup>で、「私達はコンピュータやパソコンの専門家ではなく、パソコン操作も『そこそこ』の面々です。でも、共に学習し、自分も新たな発見をしていく中で、障害者の皆さんと喜びを共有していることが、サークル活動の意義だと思っています。」と語っているように、ボランティアに参加することで、自分たちの学ぶことの方が多かったと認識している。また、ボランティアの中には、IT講習を受講して学習の成果を社会活動に生かしたいと参加した人もいた。

そこで、平成14年度当初に、パソコンボランティアの中から、表-5のように自分たちで会を作ろうと言う声が出て、平成14年5月に苫小牧市障害者パソコンボランティア友の会が結成された。

表-5 「障害者対象パソコンボランティア「友の会」の基本方針」から（抜粋）

私たち、障害者パソコンボランティアは、市の要請を受けて、1年の間、障害者のIT講習やパソコン教室の支援をしてまいりました。その間、私たちは多くの人たちと知り合いになり、多くのことを学びました。また、多くの感動をいただきました。

しかし、これでいいのか、何か足りないと感じている方もおられるのではないのでしょうか。今までも、忙しい中、ボランティアに駆けつけてきた毎日でしたが、そろそろ、自分達で出来ることは何かを考え、新たな一歩を踏み出す時が来たのではないのでしょうか。もちろん、これからも市からの協力には応ずるにしても、ささやかでも自分達の主体性を持って出来る何かを。

幸い、苫小牧市の場合、IT講習で使った障害者用パソコンは、心身障害者福祉センターに常備し、障害者の団体やパソコンボランティア団体が無料で利用することは可能だそうです。

パソコンの習得には時間が掛かります。まして、ハンディキャップのある方は大変です。でも、得られる成果は健常者以上に大きいものがあります。

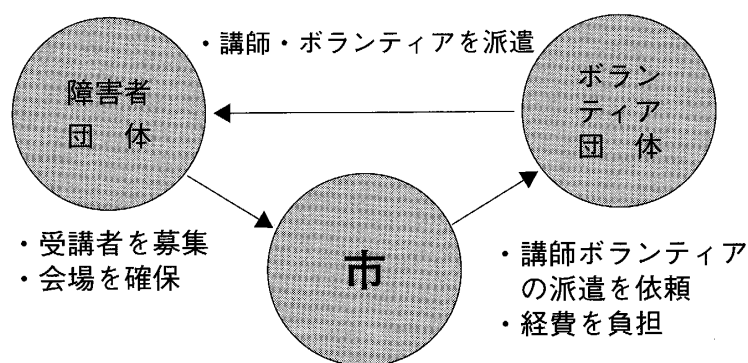
今、障害者の団体のなかには、市のIT講習や団体主催のパソコン教室だけではなく、もっともっと勉強したいという声が出ています。私たちもこれで終わらせたくはありません。

パソコンの得意な人も、そうでない人も、障害者のパソコン利用に関心のある方ならだれでも参加でき、共に学ぶ喜びを分かち合う場をつくりませんか。

### (3) 障害者パソコン教室の仕組み

市教委では、障害者パソコン教室の目的を、工業都市苫小牧の特性を生かし、IT技術に長けた人材や、講習を受講した市民を、障害者パソコンボランティアとして活用し、ボランティア団体に育成することで、学習の成果を生かす場や機会の拡充を図るとともに、障害者団体自らの参画を得て、障害者のIT技術の向上と、社会参画の促進による「まちづくり」を進める<sup>4</sup>とし、そのキーワードは、「共に学ぶ喜びを分かち合おう」と、ボランティア団体と同じものにした。

具体的な運営方法については、図－1に示すように、障害者団体が会場と受講者を募集し、市は、ボランティア団体に対し講師とボランティアの派遣をお願いすると共に、開設に関する経費を負担する。ボランティア団体は、講師とボランティアを派遣し、併せてカリキュラムも作成するとした。



図－1 運営方法

表－6 市独自の障害者パソコン教室（平成14年度～17年度）

○ 平成14年度 6月～11月（ボランティア登録 38人）

対 象	コース	受講者	時 間	回 数	ボランティア(延べ・人)
肢 体 不 自 由	1	15	2	10	66
視 覚 障 害	1	11	2	10	65
聴 覚 障 害	1	5	2	10	74
合 計	3	31		30	205

○ 平成15年度 5月～1月（ボランティア登録 30人）

対 象	コース	受講者	時 間	回 数	ボランティア(延べ・人)
肢体不自由・聴覚	1	16	2	15	114
視 覚 障 害	1	12	2	15	82
合 計	2	28		30	196

○ 平成16年度 4月～12月（ボランティア登録 23人）

対 象	コース	受講者	時 間	回 数	ボランティア(延べ・人)
肢体不自由・聴覚	1	24	2	15	111
視 覚 障 害	1	8	2	15	69
合 計	2	32		30	180

○ 平成17年度 5月～2月（ボランティア登録 20人）

対 象	コース	受講者	時 間	回 数	ボランティア(延べ・人)
肢体不自由・聴覚	1	23	2	15	
視 覚 障 害	1	11	2	15	
合 計	2	34		30	

## (4) 障害者パソコン教室の実際

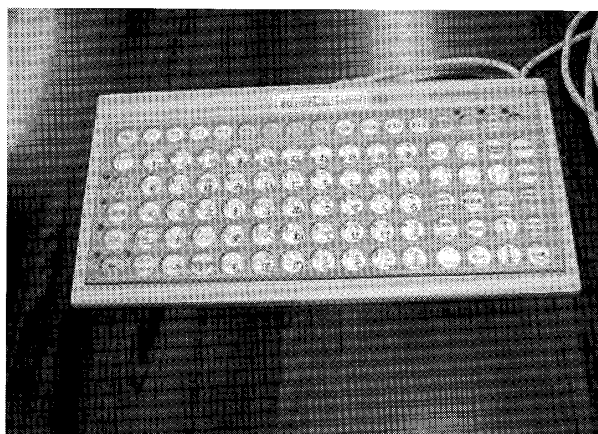
## ① 肢体不自由・聴覚障害者パソコン教室

ア 平成14年度は、肢体不自由と聴覚障害のある人に対して、別々に教室を開設したが、聴覚障害のある人の受講が減少したことにより、平成15年度からは、肢体不自由と合同で開催している。

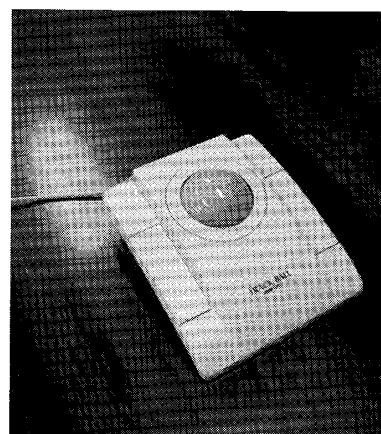
イ 開催回数は、1回2時間で月2回、合計で15回開催している。

ウ 使用機器は、ノート型のパソコンで20台を用意しているが、これは視力障害者パソコン教室と共用である。OSはウインドウズ98、主なソフトウェアは、ワード2000、エクセル2000を使っている。さらに、投影用のプロジェクターを用意している。

エ 支援技術機器としては、「マヒなどで思い通りに体を動かせない」「震えや不随意運動により、意思に反して体が動く」などによりパソコン操作が難しい人のために、固定キーやフィルタキーなどウインドウズに標準で付属しているアクセシビリティ機能を利用するほか、指先を固定するキーボード（図－2）やトラックボールマウス（図－3）、ジョイスティック型のらくらくマウス（図－4）、大小のスイッチ類（図－5）などの機器を用意している。さらに、筋ジストロフィーなどのからだを動かすこ



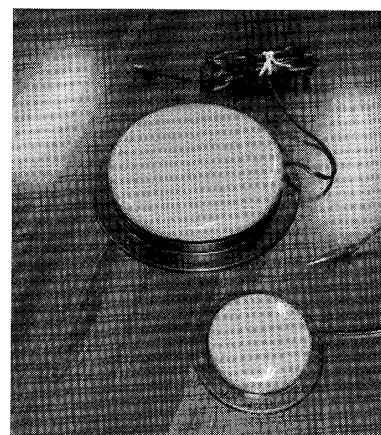
図－2 キーボード（穴の中に指先をいれ、中にあるセンサーに触れることで文字を入力する）



図－3 トラックボール



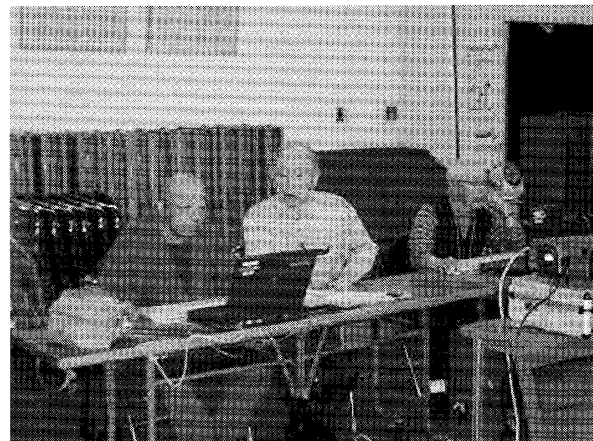
図－4 らくらくマウス



図－5 スイッチ類



図－６ パソコンを使った意思伝達装置



図－７ 肢体不自由・聴覚障害のある人のためのパソコン教室の様子

とが困難な人のために、息を使ってパソコン画面を操作し、自分の意思を第３者に伝える意思伝達装置（図－６）も使用できるようになっている。

オ 学習内容は、表－７にあるように、エクセル、ワードを使ったカリキュラムとなっている。教室がスタートしたときは、市販のテキストを利用したが、現在は、講師が独自に作ったテキストを使っている。

表－７ 肢体不自由・聴覚障害のある人のためのカリキュラム（平成17年度障害者パソコン教室）

回数	月	日	主 催	講 習 内 容		
1	5	13	苫小牧市	エクセル	住所録	初回オリエンテーション 住所録入力
2	5	27	苫小牧市	エクセル	住所録	住所録 印刷
3	6	10	苫小牧市	ウインドウズ	作表	簡単な計算表
4	6	24	苫小牧市	ウインドウズ	作表	簡単な計算表
5	7	8	苫小牧市	ウインドウズ	インターネット	利用の方法
6	7	22	苫小牧市	ワード	復習	文章レイアウト・特殊文字・ルビ等
7	7	26	苫小牧市	ワード	特殊操作	ページ番号挿入・削除・カーソルジャンプ
8	9	9	苫小牧市	ワード	特殊操作	箇条書き・難解文字・2画面操作・単語登録
9	10	14	苫小牧市	ワード	年賀状	グループ編成、文面作成
10	10	28	苫小牧市	ワード	年賀状	イラスト・写真入力
11	11	11	苫小牧市	ワード	年賀状	イラスト・写真入力、総合調整
12	11	25	苫小牧市	ワード	年賀状	印刷（文面の位置調整）
13	12	9	苫小牧市	ワード	年賀状	住所録作成
14	1	27	苫小牧市	作品製作		
15	2	10	苫小牧市	作品製作		

## ② 視覚障害者パソコン教室

ア 開催回数は、肢体不自由・聴覚障害者パソコン教室と同じで、1回2時間で月2回、合計で15回開催している。



イ 使用機器は、ノート型のパソコンで、これは肢体不自由・聴覚障害者パソコン教室と共用である。OSは、ウインドウズ98、主なソフトウェアは、ワード2000、エクセル2000を使っている。また、点字の利用者のために、点字を打ち出しする点字プリンター（図－8）も用意している。

ウ スクリーンリーダーは、当市の場合は2000Readerというソフトを利用している。視覚障害者がパソコンを操作する場合は、キーボードからローマ字入力し、画面に表記される文字を読み上げる画面読み上げソフト（スクリーンリーダー）が必須であり、図－9のように、パソコン学習は、スクリーンリーダーにかかっているといえる。

ただ、画面情報を音声で確認しながら操作を進めるため、どうしても作業が遅くなる。そこで、点字を利用する人の中には画面情報を点字で知りたい人もいる。そのために画面のカーソル行やポインターの位置の文字がピンの凹凸で示す「点字ディスプレイ」があるが、当市では用意していない。

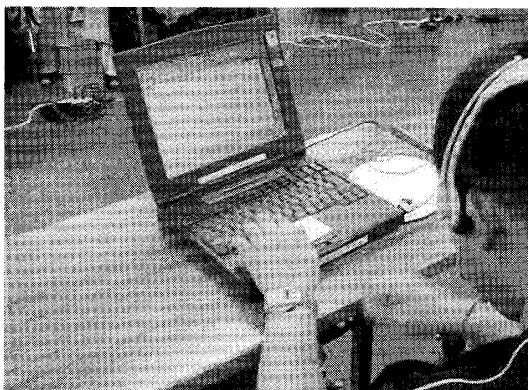
また、図－10のように、画面読み上げソフトを使うと、パソコンのキーボードを利用して点字で入力できるので、ローマ字入力の代わりにその方法で入力する人もいる。



図－8 点字プリンター（左）



図－9 パソコンの画面情報を音声で確認しながら操作を進めていく、視覚障害のある人のためのパソコン教室の様子



図－10 パソコンのキーボードから、点字で入力すると、画面上では墨字が出て、読み上げてくれる

エ 学習内容は、表－８にあるように、エクセル、ワードを使ったカリキュラムとなっているが、内容は受講者一人ひとりの学習進度に合わせた個別メニューとなっている。また、点字を利用している受講者に対しては、点字でテキストの要約を渡している。

表－８ 視力障害者教室カリキュラム（平成17年度障害者パソコン教室）

回数	日 時	主 催	講 習 内 容		
1	5月11日	苫小牧市	インターネット	インターネット検索	V2000
2	5月18日	苫小牧市	エクセル	家計簿作成 1	
3	6月1日	苫小牧市	エクセル	家計簿作成 2	
4	6月15日	苫小牧市	エクセル	家計簿作成 3	印刷
5	7月6日	苫小牧市	エクセル	住所録作成 1	
6	7月20日	苫小牧市	エクセル	住所録作成 2	印刷
7	8月3日	苫小牧市	エクセル	年賀宛名操作 1	
8	9月7日	苫小牧市	ワード	年賀宛名操作 2	印刷
9	9月21日	苫小牧市	エクセル	年賀状文面作成 1	
10	10月5日	苫小牧市	エクセル	年賀状文面作成 2	
11	10月19日	苫小牧市	エクセル	年賀状文面作成 3	
12	11月2日	苫小牧市	エクセル	年賀状文面作成 4	
13	11月16日	苫小牧市	エクセル	年賀状文面作成 5	印刷
14	12月7日	苫小牧市	エクセル	年賀状文面作成 6	印刷
15	12月21日	苫小牧市	ワード	基本操作 1	

- ③ 講師の派遣は、障害者パソコンボランティア友の会のボランティアの中から講師を選んでいただき、市教委では謝礼を負担している。
- ④ パソコンボランティアの派遣についても、障害者パソコンボランティア友の会にお願いをし、派遣していただいている。参加したボランティアの方には、交通費としてバス代を支給している。
- ⑤ ボランティア保険の保険料を市で負担している。

#### 4 障害者団体主催のパソコンクラブ

##### (1) クラブの概要

市の独自事業である障害者パソコン教室は、おおよそ4月から1月までの年間で15回と限られているため、空白期間については、受講者自身が自学自習をしようと、「肢体不自由・聴覚障害者パソコンクラブ」と「視覚障害者パソコンクラブ」の二つのサークルを結成した。

##### (2) サークル活動の内容

両サークルとも、障害者パソコンボランティア友の会の支援を受け、障害者パソコン教室の復習を行なっている。市としては、障害者の学習支援の一環として、障害者パソコン教室

で使用しているパソコンの使用を認めている。

## 5 苫小牧市障害者パソコンボランティア友の会

当市の障害者のパソコン学習を語るとき、欠くことが出来ないのが、苫小牧市障害者パソコンボランティア友の会の存在である。市主催の障害者パソコン教室は勿論のこと、障害者自身のパソコンクラブ活動においても、同会の支援なしには成り立たないのが現状である。その、具体的な活動内容をまとめると次のような内容になる。

### (1) 市教委主催の障害者パソコン教室に対する支援

- ① 講師とボランティアを派遣している。平成17年度は会員20人で活動している。
- ② パソコン教室のカリキュラムの作成も行う。

### (2) 「障害者パソコンクラブ」に対する支援活動

市教委主催の障害者パソコン教室終了後、毎年、障害者が自主的に結成したパソコンクラブ活動に対して、パソコン操作の指導や相談などの支援を行なう。平成17年度は、1月から開催予定の肢体不自由・聴覚障害、視覚障害の二つのクラブの支援を行なう。

### (3) 障害者のITリテラシー向上のための支援活動

- ① 障害者に対する友の会所有パソコンの無料貸し出し
- ② 障害者との交流
- ③ 障害者団体主催の「障害者の日文化祭」でのIT啓発活動の協力

例年、当市では「障害者の日」にちなんで、障害者団体である身体障害者福祉連合会が「障害者の日文化祭」を開催している。開催に当たって、障害者パソコン教室の受講者が日ごろの学習成果を示し、ITの利用を啓発するために、パソコン操作のデモンストレーションを行っているが（図-11）、実施には「友の会」の全面的な支援を受けている。このように、同会は、パソコン操作の支援だけではなく、障害者のIT環境全般に対しての支援活動にかかわり始めている。

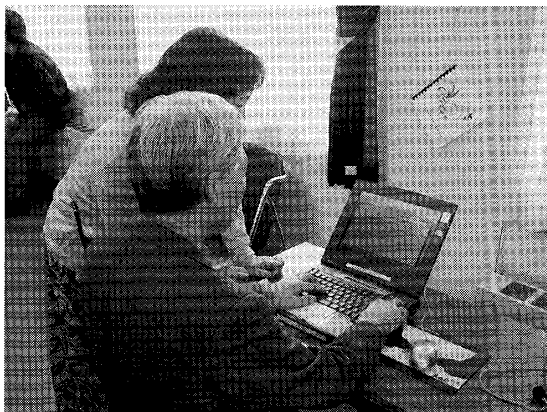


図-11  
←パソコン教室受講者（視覚）による6点  
入力によるデモンストレーション

パソコンのキーボードから直接点字で入力  
しても、文章を作ることができる。

#### (4) 会員の資質向上のための学習

① 研究会を毎月1回開催

② 各種研究会に参加

※ 会員数 20人 20代から70代までの、会社員、教員、OL、主婦、定年退職者で構成

#### (5) 活動に対する評価

このような、同会の活動に対して、昨年度、北海道胆振教育局から「胆振教育実践表彰」対象団体に選ばれ、表彰された。(図-12、図-13)



図-12 胆振管内教育実践表彰状



図-13 胆振管内教育実践表彰式

## 6 今後の課題

### (1) ネットワーク化と対象の拡大

#### ① 障害のある人のニーズに応じたきめ細かい指導体制の確立

障害と一口で言っても、その内容は様々であり、障害に応じた学習環境の設定が不可欠である。

当市のパソコン教室の場合、そのカリキュラムについては、市教委と講師、パソコンボランティア団体、障害者団体の4者で協議をしながら決めている。

しかし、その内容については、試行錯誤の連続であり、今後、ますますの検討が必要であり、場合によっては、障害に対する高度な理解が必要であり、大学、ソフトメーカなどの、機器等の研究成果を踏まえた実践が求められる場でもある。

その意味で、広範囲なネットワークが必要になってくるのではないか。

#### ② 対象の拡大

教室の開設については、身体障害者福祉連合会が希望者と会場を確保することになっており、現在は同協会の希望で視覚障害のある人と肢体不自由・聴覚障害のある人のための二つの教室を開設している。聴覚障害のある人については希望が少ないので、肢体不自由のある人の教室と一緒に受講してもらうことになっている。

他の障害については、まだ、体制ができておらず、今後の課題である。

## (2) 機器の更新と財源

当市で使用している機器は、IT講習時に文部科学省の補助金を得て購入したもので、OSはウィンドウズ98であり、使用ソフトも98対応である。ウィンドウズXPが普及してきた今日、受講者が自宅で使用するパソコンとの違いについて、別途説明をしなければならないなど操作上の問題が出てきている。

また、故障する機器もでてきており、財政難の中、今後の大きな課題といえよう。

## (3) ボランティアの養成と組織化の推進

### ① 障害者パソコンボランティア養成講座の開催

障害のある人に、パソコン学習の場の提供をすることも大切だが、障害のある人とパソコンの関係を多くの人に理解してもらい、支援の輪と支援技術の普及向上を図ることも必要であり、そのためには、まず、市民に知ってもらうための学習の場を提供することが、求められている。

そこで、当市では、独自に、障害者パソコンボランティア養成講習会を開催することとした。

講習会の内容は、多くの人に知ってもらうというコンセプトから、北海道が道内各地で開催している障害者パソコンボランティア養成・派遣事業の内容に準拠し、講師も同事業を受託しているNPO法人札幌チャレンジドの関係者にお願いをする予定である。

### ② 開催日時および内容

表－9を参照

## (4) ボランティア団体のNPO化など、行政からの自立

当市の障害者パソコン教室が、その多くをボランティア団体である苫小牧市障害者パソコンボランティア友の会に拠っていることは、前述したとおりである。

このような、同会の活動に対して、平成16年度、北海道胆振教育局から「胆振教育実践表彰」対象団体選ばれ、表彰されたことも前述した。

それと相前後して、今年度、同会は、障害者パソコン教室の開催場所である心身障害者福祉センターから、同センターが実施するディサービス事業の講師と支援者の派遣を要請され、引き受けている。

このように、同会の活動が市民の中に広まるにしたがって、学習支援だけではなく、医療の現場からリハビリテーションの道具としてのパソコン利用について、支援を求められることも予想される。

さらに、ボランティア団体の活動が広まるにつれて、団体としての体制の整備はもちろんであるが、ボランティア活動を一生懸命やればやるほど、周囲の期待もたかまり、本来は自発的な活動が義務感に捉われた活動になってしまい、活動が低調になってしまうことも予想される。

そこで、当市では、サークルや生涯学習ボランティア団体のリーダーを対象にした「生

涯学習指導者研修会」の場で、表－10にあるように平成16年度から大学の先生方をお迎えして、生涯学習とボランティアの関係について学ぶ場を提供し、ボランティアに対する理解を深めてもらっている。

表－9 苫小牧市障害者パソコンボランティア養成講習開催要項

- 1 事業の名称  
苫小牧市障害者パソコンボランティア養成講習会
- 2 参加対象／定員  
市民／20人
- 3 学習のねらい  
障害のある人にとって、パソコンは、教育やリハビリテーションの道具として、また、障害を補償し、生活を助けるものとして、障害のある人の世界を広げる可能性を秘めた優れた道具です。しかし、パソコンを障害者の役に立つ道具とするためには、障害のある人のパソコン利用について正しい知識を持つ必要があります。  
そこで、苫小牧市では、少しでも多くの市民に障害者とパソコンの関係を知っていただき、障害者がパソコンを利用するにあたって支援をしてくれるパソコンボランティアとして活躍してくださることを願って、講習会を開催します。
- 4 主催／協力／会場  
苫小牧市教育委員会生涯学習主幹／苫小牧市障害者パソコンボランティア友の会／  
苫小牧市心身障害者福祉センター研修室
- 5 日時／学習の展開

回数	第1案	内容	時 間
1	2月4日(土) 10時～17時	(1) 障害者にパソコンを教えるときの心構え・注意点 なぜパソコンボランティアが必要なのか？『障害者とパソコン』の関係。 さまざまな障害と対応。 障害者向けの講習をしている中で学んだ様々な体験や注意点などを事例を交えて講義する。	1時間
		(2) 障害を補う入力機器の紹介と操作実習 主に上肢障害者が使用する入力機器を紹介し、実際に受講者に体験してもらおう。また、重度障害のある方のパソコン『意思伝達装置』についても説明する。 ※トラックボール、ジョイスティック、キーボード、意思伝達装置『伝の心』を展示、デモを行う。	1時間
		(3) ユーザー補助設定について 障害を補うwindowsの設定について。	1時間
		(4) パソコン操作の音声読上げソフトに関する講習 視覚障害者が使用するパソコン操作を音声で読上げる音声読上げソフトの基本的な操作方法の講義。2000Readerを使用。画面を見ず、マウスを使用せず、音声を聞きながら、すべての操作をキーボード上から行う。 ※ホームページ、メールの音声読上げ体験講習 ホームページを音声で読上げる基本的な操作方法の講義及び実習。インターネットに接続してホームページを聞く。音声を聞きながらメールを作成する基本的な操作方法を体験。メールはオフラインで使用。	2時間
		(5) 質疑応答 わからなかったこと、聞いておきたいこと。	20分
		(6) ブレインストーミング 受講者アンケート。受講してみて、みんなが感じたことを言い合おう。	40分
2	2月10日(金) 18時～21時	体験実習① 肢体不自由者のパソコン教室を見学・体験してもらいます	3時間
3	2月15日(水) 18時～21時	体験実習② 視力障害者のパソコン教室を見学・体験してもらいます	3時間

今後、サークルやボランティア組織のマネジメントに関する内容、NPOなど非営利組織に関する内容などの学ぶ場を提供するなど、生涯学習に関するボランティア団体の自主的で多様な活動を支援することが今後の課題となる。

表－10 「生涯学習とボランティア」についての学習機会としての「生涯学習指導者研修会」

日時・場所	内容	講師
平成16年 3月25日(木) 18:30～20:30 文化交流センター	①事例発表(パネルディスカッション) 「サークル活動を地域に活かし、 自分に活かす」	北海道浅井学園大学教授・教育学博士 藤原 等 苫小牧市文化交流センターサークル連盟 副会長 森 れい 苫小牧市文化交流センターサークル連盟 事務局長 戸田 博 苫小牧市文化交流センター 館長 勝田 正昭 苫小牧市立苫小牧西小学校 校長 田中 紀文
平成17年 2月9日(木) 13:30～15:00 文化会館	①講演「生涯学習とボランティア」 ②実践事例発表 ・社会教育施設ボランティア活動 ・図書館ボランティアについて ・身障者パソコンボランティア活動	北海道大学教授 教育学博士 木村 純 苫小牧子どもの本の会代表 藤原 佑子 苫小牧市中央図書館奉仕係長 高松 幸二 苫小牧市障害者パソコンボランティア友の会会長 菅原 博
平成17年 8月12日(金) 10:30～15:00 文化会館	①講演「生涯学習とボランティア」 ②実践事例発表 ・学校ボランティア ・社会教育施設ボランティア ・生涯学習ボランティア	北海道大学教授 教育学博士 木村 純 心を育てる山手北光地区連絡協議会 委員長 金田 弘明 苫小牧市科学センター 副主幹 細川 正直 ペーパー・ワールド・2005 副実行委員長 一谷 誠子

## 7 おわりに

今回の報告では割愛したが、当市の障害者パソコン教室の実施に当たっては、パソコンボランティアの皆さんの支援だけではなく、手話通訳、要約筆記のボランティア団体、さらには、送迎ボランティア団体の皆さんの支援で成り立っている。

今後、障害者の学習効果を発揮するためには、市教委や市の福祉担当部局はもちろんのこと、職業訓練を担当する関係機関の支援も必要になってくるだろう。

そして、「共に学ぶ喜びを分かち合おう」という多くの市民の皆さんの心があって初めて、成り立つということではないだろうか。

<sup>1</sup> 中村賢龍、巖淵守編「パソコン・アクセシビリティ入門」こころリソースブック出版会、2005、「はじめに」

<sup>2</sup> NPO法人札幌チャレンジド <http://www.s-challenged.jp>

<sup>3</sup> 平成17年2月9日苫小牧市教委主催「生涯学習指導者研修会」で「身障者パソコンボランティア活動」について実践発表した。

<sup>4</sup> 北海道教育庁胆振教育局「平成17年度胆振教育推進資料」、平成17年3月